

「授業の改善・充実のための取組」(体育)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

課題の設定

1. めあて(ねらい)の設定において

○単元のはじめに

- ・本単元の学習に目的意識をもって取り組めるように、単元を通した学習課題を設定し、見通しをもてるようにする。
- ・運動に進んで取り組めるように、準備の仕方や安全面、取り組む姿勢などを話し、安全に楽しく授業が進められるようにする。

○授業のはじめに

- ・毎時間の学習のめあてを明確にし、単元のゴールへ向けての必要な1時間である意識をもてるようにする。
- ・体力向上や主運動の動きに繋がるように、準備運動マニュアルを活用し、サーキットトレーニングやリズムストレッチなど、単元に合った準備運動を取り入れる。

既習事項の活用の工夫

- ・児童一人一人が筋道を立てて考え、判断できるように、前時までに学習した既習事項を掲示し、振り返るようにする。
- ・学習カードを活用し、毎時間、ねらいに基づいた振り返りを行うようにして、授業を通してできるようになったことや気付いたことを確認する。

追究する場面における手だて

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

- ・目的意識をもちながら練習に取り組めるように、単元を通した学習課題を設定する。
- ・グループを編成する際は、中心となるリーダーを配置するなど、学習を効果的・効率的に進めることができるようにする。
- ・児童一人一人が責任を果たせるように、記録係、得点係などの役割を明確にする。
- ・運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動を取り入れたり、スモールステップの練習を行える場を設定したりして、段階的に取り組めるようにする。
- ・本時の課題を示すとともに、「技のポイント」をキーワードにして示した掲示物を使うなど視覚化することで、運動のねらいや「技のポイント」を明確にした授業づくりに努める。

考えを広げたり深めたりする工夫

- ・友達と「技のポイント」や練習方法に関して指摘し合えるように、意図的なグループを編成したり、付箋を活用して交流し、アドバイスし合うなど他者と協働した学習活動を意図的に設定する。
- ・「技のポイント」が常に視覚的に捉えられるように、「技のポイント」をキーワードに示して掲示したり、タブレットを活用し、自分の目で確認したりできるようにする。
- ・自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるように、課題に合った複数の場を設定する。

まとめの場面における手だて

3. 振り返り・まとめにおいて

○授業のおわりに

- ・学習カードを活用し、本時のねらいに基づいた振り返りを行うことを通して、授業でできるようになったことを確認し、実感させるとともに、次時の意欲につなげる。

○単元のおわりに

- ・単元を通して身に付けた技を、試合や発表会などで実践する場面を設定し、達成感を味わわせるようにする。